

## 学位論文審査の結果の要旨

氏名	平山耕三(ヒラヤマ コウゾウ)
審査委員	主査 古塚秀夫 (印) 副査 小林一 (印) 副査 山本晴彦 (印) 副査 内田和義 (印) 副査 能美誠 (印)
題目	貿易自由化に対応した黒毛和種肥育経営に関する研究 (Study of Japanese Black Cattle Fattening Management correspond to Trade Liberalization)
審査結果の要旨(2,000字以内)	
<p>現在、WTO体制化において、2カ国間あるいは地域間の貿易自由化が推進されている。この流れは世界的なものであり、将来的に、この流れを変えることはできない。わが国農業では、規模が小規模零細であり、しかも国土面積や人口などに規定されて規模拡大には限度がある。すなわち、わが国農業の国際競争力は相対的に弱い。このような農業であるが、次のような2つの視点からわが国農業は重要である。すなわち、①食料安全保障ひいては国家安全保障の視点、②農業の多面的機能を保持する視点からである。このようにわが国において重要な農業であるが、このなかでも最も国際競争力が弱い部門として畜産部門がある。貿易自由化の下でこの畜産部門をどのように経営すればよいのか、すなわち、畜産部門の経営戦略を立案することが喫緊の課題である。今日、この課題に関する研究成果はみられない。</p> <p>そこで、本論文では黒毛和牛の主産地である長崎県を研究対象として、貿易自由化に対応した黒毛和種肥育経営を明らかにすることを研究目的とした。この研究目的のために、第1に、長崎県の消費者を対象として、日本が直面するTPP加入に対する消費者の意識を聞き取り調査によって検討した。第2に、長崎県の黒毛和種肥育農家(以下肥育農家という)を対象にして労働時間の聞き取り調査と観測調査を行って、高級牛肉を低コストで生産することができる技術、すなわち、若令子牛肥育(200日200kgの導入)と早期出荷(24カ月肥育)の実現可能性について検討した。第3に、高級牛肉を生産することが1つの経営戦略であるが、A4等級やA5等級などの高級牛肉を生産する肥育農家の作業別労働時間に着目して、作業と高級牛肉生産との関係を聞き取り調査によって検討した。第4に、経営者能力を取り上げて、その格差要因について検討した。すなわち、上物率が高い優良肥育農家とそれが低い不振肥育農家との格差を、①飼養環境の管理要因と②肥育農家の主体的要因から明らかにした。第5に、肥育農家の飼養環境を測定して、優良肥育農家の牛舎環境について明らかにした。</p> <p>本論文で明らかにした具体的内容は次のとおりである。第1に、消費者のTPP加入に対する消費者の意識についてである。①消費者は国産指向の傾向が強く、TPP加入にも否定的な面が強いが、食べ盛りの子供を抱えている「中年層」は、比較的安価な輸入牛肉を指向する傾向にあることを明らかにした。②「若年層」は、TPPについての知識が少なく、TPP加入後、安価な輸入牛肉</p>	

を購入するかどうかはわからないという意見が多かったが、関心が低いことを明らかにした。③「壮年層」は、T P P 加入には否定的で、T P P 加入後も安価な輸入牛肉を購入しないことを明らかにした。

第2に、若令子牛肥育(200日200kgの導入)と早期出荷(24カ月肥育)の実現可能性についてである。①高級牛肉生産は、高齢農家をもつ高度な飼養管理技術によって継続されることを明らかにした。②低コスト生産として、「200日200kgでの導入」と「24カ月肥育の可能性」への取り組みが必要であることを明らかにした。ただし、③肥育期間を短縮させるためには高い生産技術が必要であり、高齢農家から青壮年農家へ技術の伝承を図る必要があることを指摘した。

第3に、作業と高級牛肉生産(上物率の向上)との関係についてである。①上物率に影響を与える要因としては、日常管理作業として「清掃時間割合」、「飼槽清掃時間割合」、「観察時間割合」と、不定期管理作業として「敷き料交換頻度」が重要な作業であることを明らかにした。②上物率の向上と「主体的要因」の間に強い関連が認められた。すなわち、「専門誌購読」、「研修会参加」、「農業新聞購読」、「部会出席」、「敷き料交換頻度」、「牛の手入れ頻度」、「枝肉出荷立会い」、「清掃頻度」、「営農意欲」、「投薬」、「飼料調整頻度」が重要な主体的行動であることを明らかにした。

第4に、経営者能力の格差の要因についてである。聞き取り調査結果に基づく数量化理論により分析した。その結果、優良肥育農家と不振肥育農家では、管理要因(「牛体管理」、「環境管理」、「ストレス管理」と主体的要因(「主体的行動」、「営農意欲」、「知識欲」)について明瞭な格差が認められた。

第5に、優良肥育農家の牛舎環境についてである。①「牛舎内部気温」に影響を与える要因は、「牛舎外部気温」、「牛舎外部湿度」、「牛舎内部風速」、「牛舎内部湿度」であり、外部の風や、湿気、気温が牛舎内環境に大きく影響しており、外部の環境制御が牛舎内部の環境の良否を左右していることを明らかにした。②優良肥育農家は、外気温と比較して牛舎内部の気温を下温し、調節していることを明らかにした。すなわち、優良肥育農家は、牛にとって快適な環境を整備することにより、品質が高い牛肉を生産していることを明らかにした。

以上のように、本論文では、貿易自由化に対応した肥育経営について検討して、高級牛肉生産あるいは上物率の向上が今後の肥育経営の方向であることを明らかにしている。そして、さらに高級牛肉生産あるいは高い上物率を実現している肥育農家を優良肥育農家と位置づけて、優良肥育農家の経営能力や生産技術について明らかにしている。とくに、これまで取り組まれたことかない「肥育農家と貿易自由化(とくにT P P)」というテーマに取り組んだことは、農業経営学上、先駆的な研究として高く評価でき、学位論文として十分な価値を有するものと判定した。